
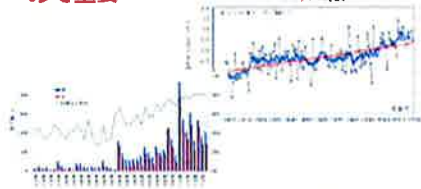


令和3年4月28日より全国で本格実施


熱中症警戒アラート
 環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 背景

- 熱中症による**死亡者数・救急搬送人員数**は増加傾向にあり、気候変動等の影響を考慮すると**熱中症対策は極めて重要**



2. 発表方法

- 高温注意情報を、熱中症の発生との関が高い**暑さ指数 (WBGT)**を用いた新たな情報に置き換える

暑さ指数 (WBGT) とは、人間の熱が「ガス」に影響の大きい
気温 湿度 放射熱



の3つを取り入れた暑さの厳しさを示す指標です。

※各地域の暑さ指数は環境省の熱中症予防情報サイト参照



3. 発表の基準

- 府県予報区内のどこかの地点で暑さ指数 (WBGT) が**33以上になると予測した場合に発表**

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき気象状況の目安*	日常生活に注意する目安**	熱中症予防の留意事項†
33以上	暑さ指数が33以上の地域が出現する	暑熱環境下では、長時間の屋外活動や、屋外での長時間の労働を避け、涼しい室内に移動する。	屋外作業やスポーツの中止、長時間の屋外活動は避け、涼しい室内に移動する。長時間の屋外活動が必要な場合は、涼しい時間帯に行う。水分補給をこまめに行う。
30-33	暑さ指数が30以上の地域が出現する	暑熱環境下では、長時間の屋外活動や、屋外での長時間の労働を避け、涼しい室内に移動する。	屋外作業やスポーツの中止、長時間の屋外活動は避け、涼しい室内に移動する。長時間の屋外活動が必要な場合は、涼しい時間帯に行う。水分補給をこまめに行う。
25-30	暑さ指数が25以上の地域が出現する	暑熱環境下では、長時間の屋外活動や、屋外での長時間の労働を避け、涼しい室内に移動する。	屋外作業やスポーツの中止、長時間の屋外活動は避け、涼しい室内に移動する。長時間の屋外活動が必要な場合は、涼しい時間帯に行う。水分補給をこまめに行う。
21-25	暑さ指数が21以上の地域が出現する	暑熱環境下では、長時間の屋外活動や、屋外での長時間の労働を避け、涼しい室内に移動する。	屋外作業やスポーツの中止、長時間の屋外活動は避け、涼しい室内に移動する。長時間の屋外活動が必要な場合は、涼しい時間帯に行う。水分補給をこまめに行う。

注1) 日本気象学会指針より引用
注2) 日本スポーツ協会指針より引用

4. 発表の地域単位・タイミング

<地域単位>

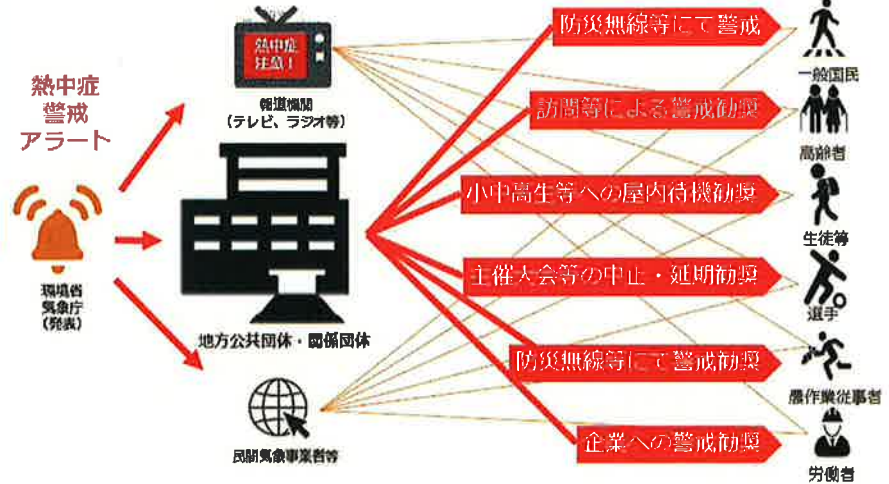
- **気象庁の府県予報区単位**で発表
- 該当府県予報区内の観測地点毎の予測される暑さ指数 (WBGT) も情報提供



<タイミング>

- **前日の17時頃及び当日の朝5時頃**に最新の予測値を元に発表
- 報道機関の夜及び朝のニュースの際に報道いただくことを想定
- 「気づき」を促すものであるため、一度発表したアラートはその後の予報で基準を下回っても取り下げない

5. 情報の伝達方法 (イメージ)



6. 発表時の熱中症予防行動例

- 熱中症の危険性が極めて高くなると予測される日の前日または当日に発表されるため、**日頃から実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底することが重要**。(例)
 - ▶ 不要不急の外出は避け、昼夜を問わずエアコン等を使用する。
 - ▶ 高齢者、子ども、障害者等に対して周囲の方々から声かけをする。
 - ▶ 身の回りの暑さ指数 (WBGT) を確認し、行動の目安にする。
 - ▶ エアコン等が設置されていない屋内外での運動は、原則中止/延期をする。
 - ▶ のどが渇く前にこまめに水分補給するなど普段以上の熱中症予防を実践する。



7. 令和3年度以降の検証について

- 令和3年度の全国展開以降、定期的に「熱中症警戒アラート」の発表状況等を踏まえた検証を実施し、効果の算出に努める。
- 継続的に検証を重ね、今後の熱中症対策の課題改善に繋げる。